

僕の昔

夏目漱石

青空文庫

根津^{ねづ}の大観^{だいかん}音^{のん}に近く、金田夫人の家や二弦^{にげん}琴^{きん}の師匠や車宿や、ないし落雲^{らくうん}館^{かん}中學などと、いずれも『吾輩^{わがはい}は描^ねである』の編中^{へんちゆう}でなじみ越^こしの家々の間に、名札^{なしかた}もろくにはつてない古^こべいの苦沙弥^{くしゃみ}先生の居^きは、去年の暮れおしつまって西片町^{にししかたまち}へ引き越された。君、こんどの僕の家は二階があるよと丸善の手代みたように群書堆裡^{ぐんしよたいり}に髭^{ひげ}をひねりながら漱石^{そうせき}子^しが話^わしていられると、縁側^{えんがわ}でゴソゴソ音がする。見てみると三毛猫の大きなやつが障子^{しょうじ}の破れからぬうと首を突き出して、ニヤンとこちらを向きながらないた。

あの猫はね、こっちへ引きこしてきてからも、もとの千駄木の家へおりおり帰って行くのだ。この間も道であいつが小便をたれてるところをうまくとつかまえて連れて戻った。やつぱしもとの家というものは恋しいものかなあ。——何、僕の故家^{いえ}かね、君、軽蔑^{けいべ}しては困るよ。僕はそれでも江戸っ子だよ。しかしだいぶ江戸っ子でも幅のきかない山の手だ、牛込の馬場下で生まれたのだ。

父親は馬場下町の名主で小兵衛といった。別に何も商売はしていなかったのだ。何でもあの名主なんかいうものは庄屋と同じくゴタゴタして、収入などかなりあったものとみえる。ちようど、今、あの交番——喜久井町を降りてきた所に——の向かいに小倉屋という、それ高田馬場の敵討の堀部武庸かね、あの男が、あすこで酒を立ち飲みをしたとかいう榊を持つてゐる酒屋があるだろう。そこから坂のほうへ二三軒行くと古道具屋がある。そのたしか隣の裏をずっとはいると、玄関構えの朽ちつくした僕の故家があった。もう今は無くなつたかもしれぬ。僕の家は武田信玄の苗裔だぜ。えらいだろう。ところが一つえらくないことがあるんだ。何でも何代目かの人、君に裏切りとかをしたということだ。家の紋は井桁の中に菊の紋だ。今あのへんを喜久井町というのは、僕の父親がつけたので、家の紋から、菊井を喜久井とかえたのだそう。こんなことはそうさな、明治の始めごろの話だぜ、名主というものがまだあつた時分だろう。

名主には帯刀ごめんとそうでないのとの二つがあつたが、僕の父親はどっちだったか忘れてしまった。あの相模屋という大きな質屋と酒屋との間の長屋は、僕の家で、あの時分に玄関を作るのは名主にだけは許されていたから、名主一名お玄関様という奇抜な尊称を父親はちようだいしてさかんにいばつていたんだろう。

家は明治十四五年ごろまでであったのだが、兄あにきらが道楽者でさんざんにつかつて、家なんかは人手に渡してしまったのだ。兄きは四人あつた。一番上のは当時の大学で化学を研究していたが死んだ。二番目のはずいぶんふるつた道楽ものだった。唐とう棧げんの着物なんか着て芸者買いやら吉原通いにさんざん使つてこれも死んだ。三番目のが今、無事で牛込にいる。しかし馬場下の家にはない。馬場下の家は他人の所有になってから久しいものだ。僕はこんなずぼらな、のんきな兄らの中に育つたのだ。また従兄いとこにも通人がいた。全体にソワソワと八笑人か七変人のより合いの宅いえみたよに、一日芝居しばいの仮声かせいをつかうやつもあれば、素人落語しろうとばなしもやるというありさまだ。僕は一番上の兄に監督せられていた。

一番上の兄だつて道楽者の素質は十分もつていた。僕かね、僕だつてうんとあるのさ、けれども何分貧乏とひまがないから、篤行とつこうの君子を気取つて描ねこと首びつ引きしているのだ。子供の時分には腕白わんぱく者でけんかがすきで、よくアバレ者としかられた。あの穴八幡あなはちまんの坂をのぼつてずっと行くと、源兵衛村げんべえむらのほうへ通う分岐道わかれみちがあるだろう。あすこをもつと行くと諏訪すわの森の近くに越後様えちごさまという殿様のお邸やしきがあつた。あのお邸の中に桑木げんよ厳げん翼くさんの阿母あはさんのお里があつて鈴木とかいった。その鈴木の家の子がおりおり僕の家へ遊びに来たことがあつた。

僕の家の中には大きな棗なつめの木が五六本もあった。『坊っちゃん』に似ているって。あるいはそうかもしれないよ。『坊っちゃん』にお清という親切な老婢ろうひが出る。僕の家にも事實はあんな老婢がいて、僕を非常にかわいがってくれた。『坊っちゃん』の中に、お清からもらった財布さいふを便所へ落とすと、お清がわざわざそれを拾ってもってきってくれる条くだりがあつた。僕は下女に金をもらった覚えはないが、財布の一条ひとくだりは実地の話だった。僕の幼友おきなともだちで今、名を知られている人は、山口弘一という人だけだ。この人はたしか学習院の先生かなんかしていられるということだ。くわしくは知らぬ。

そのうちに僕は中学へはいったが、途中でよしてしまつて、予備門へはいる準備のため駿河台にそのころあつた成立学舎へはいった。そのころの友人にはだいぶえらくなつたやうがある。それから予備門へはいった。山田美妙びみょう斎さいとは同級だったが、格別心やすうもしなかつた。正岡とはその時分から友人になつた。いっしょに俳句もやつた。正岡は僕よりももつと変人で、いつも氣に入らぬやつとは一語も話さない。孤峭こしょうなおもしろい男だった。どうした拍子か僕が正岡の氣にいったとみえて、打ちとけて交わるようになった。上級では川上眉山びざん、石橋思案しあん、尾崎紅葉こうようなどがいた。紅葉はあまり学校のほうはできのよくない男で、交際も自分とはしなかつた。それからしばらくすると紅葉の小説が名高く

なりでした。僕はそのころは小説を書こうななどとは夢にも思っていなかったが、なあにおれだつてあれくらいのはすぐ書けるよという調子だった。

ちようど大学の三年の時だったか、今の早稲田^{わせだ}大学、昔の東京専門学校へ英語の教師に行つて、ミルトンのアレオパジチカというむずかしい本を教えさされて、大変困つたことがあつた。あの早稲田の学生であつて、子規や僕らの俳友の藤野^{こはく}古白は姿見橋——太田^ど道^{うかん}灌^{やまぐさ}の山吹の里の近所の——あたりの素^{しろ}人^{ろうと}屋にいた。僕の馬場下の家とは近いものだから、おりおりやつてきて熱烈な議論をやつた。あの男は君も知っているだろう。精神錯乱で自殺してしまつたよ。『新俳句』に僕がああ男を追懷して、

思ひ出すは古白と申す春の人

という句を作つたこともあつたつけ。——その後早稲田の雇われ教師もやめてしまつた。むろん僕が大学学生中の話だぜ。その間僕は下宿をしたり、故家^{うち}にいたり、あちらこちらに宿をかえていた。僕が大学を出たのは明治二十六年だ。元来大学の文科出の連中にも時期によつてだいぶ変わつてゐる。高山が出た時代からぐつと風潮が変わつてきた。上田敏君もこの期に属している。この期にはなかなかやり手がたくさんいる。僕らはそのまえのいわゆる沈滞時代に属するのだ。

学校を出てから、伊予の松山の中学の教師にしばらく行つた。あの『坊っちゃん』にあるぞなものの訛なまりを使う中学の生徒は、ここの連中だ。僕は『坊っちゃん』みたようなことはやりはしなかつたよ。しかしあの中にかいた温泉なんかはあつたし、赤手拭あかてぬぐいをさげてあるいたことも事実だ。もう一つ困るのは、松山中学にあの小説の中の山嵐やまあらしという紳名だの教師と、寸分すんぶんも違たがわぬのがいるというので、漱石はあの男のことをかいたんだといわれてるのだ。決してそんなつもりじやないのだから閉口へいこうした。

松山から熊本の高等学校の教師に転じて、そこでしばらくいて、後に文部省から英国へ留学を命ぜられて、行つて歸つて来て、今は大学と一高と明治大学との講師をやっている。なかなか忙しいんだよ。

落語はなしか。落語はすきで、よく牛込の肴町さかなまちの和良店わらだなへ聞きにでかけたもんだ。僕はどちらかといえど子供の時分には講釈がすきで、東京中の講釈の寄席よせはたいてい聞きに回つた。なにぶん兄らがそろつて遊び好きだから、自然と僕も落語や講釈なんぞが好きになつてしまったのだ。落語家はなしかで思ひ出したが、僕の故家いへからもう少し穴八幡のほうへ行くと、右側に松本順という人の邸やしきがあつた。あの人は僕の子供の時分には時の軍医総監ではぶりがきいてなかなかいばつたものだった。円遊えんゆうやその他の落語家がたくさん出入りしてお

った。

——ざっと僕の昔を話したらこんなものだ。この僕の昔の中には僕の今もだいぶはいつているようだね。まあよいようにやっておいてくれたまえ。

青空文庫情報

底本：「吾輩は猫である（他一編）」旺文社文庫、旺文社

1965（昭和40）年7月10日初版発行

1969（昭和44）年7月1日重版発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：土屋隆

2005年9月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

僕の昔

夏目漱石

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>